

ウリ類ホモプシス根腐病の発生地域が拡大 しおれの発生した株の根をよく観察してください

令和2年度病虫害発生予察情報第16号特殊報第3号（令和2年10月1日付け）で道内での発生が初めて確認された「ウリ類ホモプシス根腐病」について、本年は前年に発生を認めた空知地方において、6月上旬から発生を認めた他、前年に発生がなかった上川地方において、5月下旬からしおれた株が発生し、診断の結果、ホモプシス根腐病の発生が確認されました。

既に道内における汚染が広域に拡大していることが懸念されるとともに、本病は発生が認められない場合であっても、土壌が潜在的に汚染されている場合があるため、ウリ科作物栽培ほ場では、栽培後に必ず毛細根をよく観察し、本病の特徴である偽子座、偽微小菌核がないかを確認してください。

1. 発生の確認経過

- 1) 前年に発生を認めた空知地方において、6月上旬より本病の発生が確認されている。
- 2) 前年発生が見られなかった上川地方においても、5月下旬よりしおれた株が発生し、根の観察とPCR検査により本病の発生が確認されている。

2. 防除対策

- 1) 発生当年における対処方法はないので、ほ場内でのしおれた株の発生状況等を把握するとともに、毛細根を中心に観察を行い、偽子座、偽微小菌核がないかを確認する。
- 2) ウリ科作物栽培ほ場では、しおれた株が無い場合でも、栽培後に根を掘り取り、毛細根を中心に観察を行い、偽子座、偽微小菌核がないかを確認する。
- 3) 発生ほ場でのウリ科作物の栽培は避ける。

なお、「ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル（農研機構東北農業研究センター）2013年2月」に示されている本病の対策を次に示す。

- (1) きゅうりでは、しおれが軽微である場合、転炉スラグを土壌混和し、pH7.5まで改良することにより被害を軽減できる。
- (2) きゅうりでは、かぼちゃ台木を利用する。
- (3) しおれによる被害が大きい場合、クロルピクリン剤による土壌消毒を行う。なお、消毒はマルチ畦内処理でも効果がある。
- (4) 夏季に土壌還元消毒を行うことにより、高い防除効果が得られる。
- (5) 栽培終了後に根（毛細根を含む）をできるだけ土壌中に残さないように処分する。
- (6) ウリ科作物の栽培を避ける。
- (7) 発生が疑われるほ場への出入りに注意するとともに、作業機械などは作業後に必ず洗浄する。



きゅうりの根に発生した偽子座



きゅうりの根に発生した偽微小菌核